

## 指導教員が掲げたゴール



## ディスカッション後の感想



### 所属 教育学部

ディスカッションを行ったところ、3つのSDGsゴール番号に関わっているのではないかと結論付けました。

まず一つ目は、当初想定通りの**4番「質の高い教育をみんなに」**です。オーケストラの授業では、曲を演奏するだけでなく、曲想と音楽的な構造との関わりを考えたりしながら、多くの専門の先生方から学ぶことができます。全学開放科目でもあり、様々な属性の学生にも学ぶ機会を与えられた授業だと感じています。

二つ目は、**11番「住み続けられるまちづくりを」**です。オーケストラの授業では、成果発表の場として定期演奏会が毎年開催されています。この演奏会は、学生の学びの成果を公開するだけでなく、大学と地域、人と人とを結びつける役割もあると思いました。これらの活動を通して、音楽表現の面から魅力的なまちづくりの一端を担うことができるのではないかという意見も挙がりました。

三つ目は、**16番「平和と公正をすべての人に」**です。様々な作品に取り組みますが、それぞれの曲が持つ歴史的背景についても学びます。例えば、シベリウスの《フィンランディア》は、ロシアの圧政に苦しんでいたフィンランドで独立運動が起こっていた時代に作られました。当時の歴史を知り、作曲者の思いを想像することで、平和に対する思いも強くなるように感じます。同時に、ロシア出身の作曲家の作品も演奏するなど、国や争いを越えて音楽を届けることの意義について考えさせられました。演奏に必要な技術に加え、歴史的背景にも目を向け、知見を広げることで、改めて、上記「4番」における質の高い教育にもつながっていくことに気づきました。

今回、SDGsの視点からディスカッションを行ったことで、音楽が持つ力やその役割について再発見することができました。今後も、様々な角度から日々音楽と向き合い、研鑽を積んでいきたいと思えます。

## 指導教員が掲げたゴール



## ディスカッション後の感想



### 所属 教育学部

指導教員が掲げた目標である11番「住み続けられるまちづくりを」は現在自身が研究テーマとして進めている水害の減災・防災教育に強く結びつく目標であり、ゼミにおいても学んできたことはあるのだが、個別のターゲットの具体的な内容は知らず、今回初めて知る機会となった。

そこでは、10個のターゲットと3個の実現のための方法が示されていたが、個別のターゲットを見ることで、すべてのSDGsの目標は個々に存在しているのではなく1つの目標達成が、他すべての目標達成に少しずつ影響を与えることが見えてきた。

例えば、ターゲットには貧困層や弱い立場にも立って、安い値段などで交通手段を使うようにする等、住み続けられるまちづくりのあり方を考えることが示されているが、これは1番「貧困をなくそう」や10番「人や国の不平等をなくそう」と深く関わっている。

しかしながら、貧困層の目線に立って物事を考えすぎていると、8番「働きがいも経済成長も」という目標は達成しづらいのではないかといった新たな考えも広がり、どの目標もバランスよく達成することの難しさを感じた。

以上より、1つ1つの目標は少しずつ関連しているものの、1つに集中しすぎると、他の目標がおろそかになってしまう可能性もあるという視点を大切にしながら、バランスよく「誰一人取り残さない」ためにはというスローガンを意識し行動する必要があると感じた。